社会保障法

黒田有志弥＝柴田洋二郎＝島村暁代＝永野仁美＝橋爪幸代

2019年7月発売／222頁／本体1900円＋税
A5判／並製

初級　学習　学部　一般

詳細を見る

編集担当者から

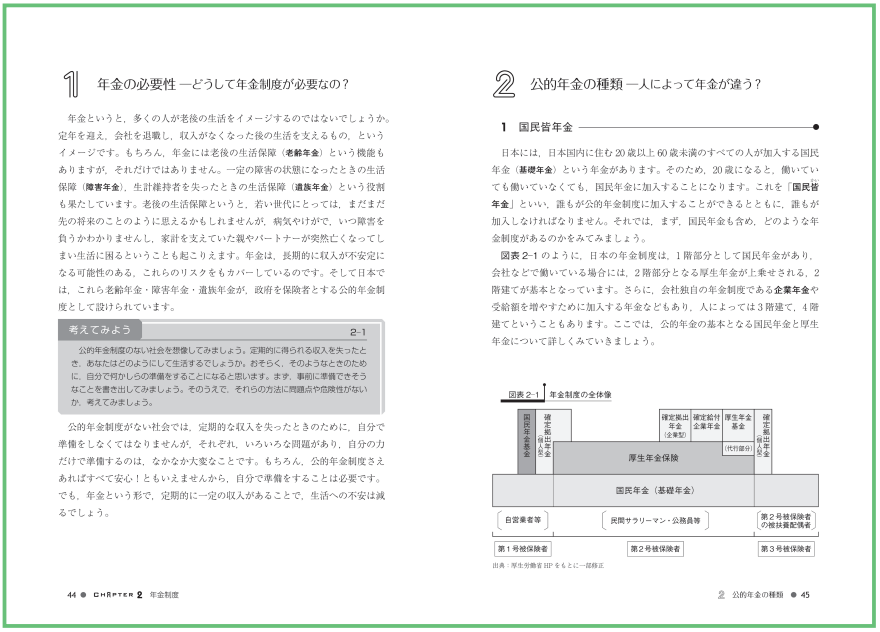
突然ですが，私たちは，病気になったとき，どのようにして医療サービスを受けることができるでしょうか？　あるいは，働くことができず，食べるものもなくなってしまったとき，どうすればよいでしょうか？　その答えは，「社会保障制度」という制度の中に用意されていて，この制度に関するたくさんの法律のことをまとめて「社会保障法」といいます。

それでは，社会保障制度は，誰がどのように利用できる制度であるのがよいでしょうか？　また，社会保障制度にかかるお金は，誰がどのように負担するのがよいでしょうか？　学生，会社員，専業主婦／夫，自営業者，日本で暮らす外国人，お年寄り，若い世代……。あなたは，どう考えますか？

こんなふうに私たちの生活に密接に関わる問いは，ほかにもたくさんあるでしょう。その答えを，法学という観点で学んだり考えたりする。本書は，そんな学びや思考を，やさしく力強く支えてくれます。身近な生活に関わる制度や問題について知りながら，社会のことを考えてみませんか。（三宅）

Point!

P　やさしい文章や図表，各種コーナーが，順を追って丁寧に学びを導きます。



1　年金の必要性 ―どうして年金制度が必要なの？

年金というと，多くの人が老後の生活をイメージするのではないでしょうか。定年を迎え，会社を退職し，収入がなくなった後の生活を支えるもの，というイメージです。もちろん，年金には老後の生活保障（**老齢年金**）という機能もありますが，それだけではありません。一定の障害の状態になったときの生活保障（**障害年金**），生計維持者を失ったときの生活保障（**遺族年金**）という役割も果たしています。老後の生活保障というと，若い世代にとっては，まだまだ先の将来のことのように思えるかもしれませんが，病気やけがで，いつ障害を負うかわかりませんし，家計を支えていた親やパートナーが突然亡くなってしまい生活に困るということも起こりえます。年金は，長期的に収入が不安定になる可能性がある，これらのリスクをもカバーしているのです。そして日本では，これら老齢年金・障害年金・遺族年金が，政府を保険者とする公的年金制度として設けられています。

考えてみよう　2-1

公的年金制度のない社会を想像してみましょう。定期的に得られる収入を失ったとき，あなたはどのようにして生活するでしょうか。おそらく，そのようなときのために，自分で何かしらの準備をすることになると思います。まず，事前に準備できそうなことを書き出してみましょう。そのうえで，それらの方法に問題点や危険性がないか，考えてみましょう。

公的年金制度がない社会では，定期的な収入を失ったときのために，自分で準備をしなくてはなりませんが，それぞれ，いろいろな問題があり，自分の力だけで準備するのは，なかなか大変なことです。もちろん，公的年金制度さえあればすべて安心！ともいえませんから，自分で準備をすることは必要です。でも，年金という形で，定期的に一定の収入があることで，生活への不安は減るでしょう。

44 ● CHAPTER 2　年金制度

2　公的年金の種類 ―人によって年金が違う？

1　国民皆年金

日本には，日本国内に住む20歳以上60歳未満のすべての人が加入する国民年金（**基礎年金**）という年金があります。そのため，20歳になると，働いていても働いていなくても，国民年金に加入することになります。これを「**国民皆年金**」といい，誰もが公的年金制度に加入することができるとともに，誰もが加入しなければなりません。それでは，まず，国民年金も含め，どのような年金制度があるのかをみてみましょう。

図表2-1のように，日本の年金制度は，1階部分として国民年金があり，会社などで働いている場合には，2階部分となる厚生年金が上乗せされる，2階建てが基本となっています。さらに，会社独自の年金制度である**企業年金**や受給額を増やすために加入する年金などもあり，人によっては3階建て，4階建てということもあります。ここでは，公的年金の基本となる国民年金と厚生年金について詳しくみていきましょう。

図表2-1　年金制度の全体像

出典：厚生労働省HPをもとに一部修正

2　公的年金の種類 ● 45

※目次は，小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。